

## 第 39 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

横山 智哉 氏

(学習院大学法学部 教授)

テレコム人文学・社会科学賞 入賞

「政治の話」とデモクラシー: 規範的効果の実証分析」



この度は、伝統ある「第 39 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 入賞」を賜り、光栄に存じます。審査委員の先生方をはじめとして、電気通信普及財団の関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。

これまで「政治の話」に関する通説や規範を暗黙のうちに受け入れることで、そもそも人々は「政治の話」としてどのような話題を交わし、その会話はどのような特性を有し、民主政の構成員である人々にどのような効果を与えるのかという問いは十分に検証されておりません。このように、非常に曖昧であった「政治の話」の構造、特性および効果についてデータを用いた実証分析から解明したいと思い、本書を執筆いたしました。

具体的に、本書は日常生活で交わす政治的会話、それとは異なる実験環境で交わす政治的議論という 2 種類の「政治の話」に着目し、それらが人々の政治態度や政治行動に与える効果の内実を実証しました。その結果、「政治の話」をタブー視する言説の実証的妥当性の乏しさや、日常生活でごく自然に交わされる政治的会話が民主政に寄与する可能性などを明らかにしました。いまだに、人々の日常行動の実態とは乖離する「政治の話」の通説が流布する中で、本書の目的をどこまで遂行できたのか不安に感じていましたが、このたび審査委員の先生方から本書を評価して頂いたことは大きな励みになります。

今後は本書の実証的知見を応用し、デジタル技術を活用した「市民参加型の合意形成プラットフォーム」の効果的な制度設計を明らかにする研究などに邁進してまいります。末尾ながら、電気通信普及財団の益々のご発展を祈念しております。



## 第39回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

**齊藤 邦史 氏**

(慶應義塾大学総合政策学部 准教授)

### テレコム人文学・社会科学賞 入賞 「プライバシーと氏名・肖像の法的保護」



この度は、伝統ある「第39回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 入賞」の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。

本書では、プライバシーと氏名・肖像について、公法と私法の両面にわたって法的保護のあり方を検討しました。これらの領域では、いずれもいわゆる人格権の侵害が問題になると考えられてきました。本書に収録された一連の研究では、判例法理の読み直しを通じて、法的保護の実質的な理由をきめ細かく分析することを心がけました。その目的は、表現の自由のような対抗利益との調整をより適切に判断できる枠組みの定立で

す。

受賞を励みとして、今後とも研究を継続して参ります。  
最後になりましたが、電気通信普及財団の益々のご発展とご繁栄を心より祈念申し上げます。

## 第 39 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

佐々木 裕一 氏

(東京経済大学コミュニケーション学部 教授)

テレコム人文学・社会科学賞 入賞

「スマホで YouTube にハマるを科学する アーキテクチャと動画ジャンルの影響力」



この度は、名誉ある「第 39 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞 入賞」を賜りまして、誠に光栄に存じます。また同じ「メディア社会学科」に所属する 3 名のチームで受賞できたことを嬉しく思います。

この本では 2020 年代という近未来を見据え、つい手に取ってしまう「スマホ」、ただ見ているだけでも良い「動画」、そしておすすめ機能のみならず複数の機能を持ち、利用者も多い「YouTube」という条件下で、設計者によって作られたアプリ上の人工的環境(アーキテクチャ)と利用者が元々接触しているジャンルのそれぞれが利用者の動画視聴行動に影響しているのか否かを分析し、論じました。結論は一言で言うなら「両方とも影響していた」となりますが、紙幅の限られたこの場所では誤解も生みやすいので、できれば本書を手にとっていただけたらと存じます。

細部に入り込みすぎず、データを無駄にしないで基礎的分析を重ねることで全体像を示すことを意識したのが今回の一連の研究でしたが、本賞をもって評価いただき、今後の研究活動への励みとなりました。最後になりましたが、本書の完成にご協力くださった多くの方に感謝申し上げるとともに、電気通信普及財団のますますのご発展を祈念いたします。



## 第39回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

**大森 翔子 氏**

(法政大学社会学部 専任講師)

**テレコム人文学・社会科学賞 奨励賞**

**「メディア変革期の政治コミュニケーション: ネット時代は何を変えるのか」**



この度は、伝統と名誉ある「第39回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学賞奨励賞」を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。選考委員をはじめとした、電気通信普及財団の皆さまに深く感謝申し上げます。また、本書は東京大学大学院に提出した博士論文を土台に執筆したものです。これまでご指導いただいた先生方、出版元である勁草書房、出版助成をいただいた吉田秀雄記念事業財団に改めて感謝申し上げます。

本書は、インターネット接触が中心となった情報環境下における、人々の政治コミュニケーションの諸相を様々な調査および実験により検討したものです。調査・実験結果の一部から、人々の政治情報接触はインターネットが中心になりつつあること、また、人々がポータルサイトのニュースに接触する際には、ニュースの情報源が当該ニュース内容の信頼性評価に与えていないといった知見を得ました。インターネットの普及により情報接触の選択肢は爆発的に増えていますが、人々の「共通の情報基盤」が失われつつあることが示唆されており、政治行動といった帰結についても今後さらに検討の必要があると考えています。

この度の受賞を励みに、より一層研究に邁進してまいります。

末尾ながら、貴財団のますますのご発展を心より祈念申し上げます。